（報告事項　　）

第 1324 回経営委員会資料
２０１９年２月２６日

「第70回日本放送協会放送文化賞」の贈呈について

「第70回（2018年度）日本放送協会放送文化賞」は、次に掲げる9人の方々への贈呈が決定した。

＜五十音順＞

稲畑（いなはた）	汀子（ていこ）	氏	【俳人、日本伝統俳句協会 会長】
伊福部（いふくべ）	達（とおる）	氏	【東京大学 名誉教授】
大日向（おおひなた）	雅美（まさみ）	氏	【恵泉女学園大学 学長】
尾高（おたか）	忠明（ただあき）	氏	【ＮＨＫ交響楽団 正指揮者】
近藤（こんどう）	正臣（まさおみ）	氏	【俳優】
高橋（たかはし）	源一郎（げんいちろう）	氏	【作家、明治学院大学 教授】
野村（のむら）	萬（まん）	氏	【狂言師（和泉流）、日本芸能実演家団体協議会 会長】
原口（はらぐち）	泉（いずみ）	氏	【志學館大学 教授】
室﨑（むろさき）	益輝（よしてる）	氏	【兵庫県立大学大学院 教授】

参考資料

放送文化賞は、昭和24年度に放送開始25周年事業として創設したもので、放送事業の発展、放送文化の向上に功績のあった方々に贈呈しており、受賞者は今回の9人をあわせると457件、459人となる。

受賞者の選考は、堂元副会長を委員長とする日本放送協会 放送文化賞受賞者選考委員会で行われ、これを受けて上田会長が決定した。なお、選考委員は以下の通り。

部外選考委員 （五十音順） 6人	池端（いけはた） 俊策（しゅんさく） 氏（脚本家） 今井（いまい） 秀樹（ひでき） 氏（東京大学名誉教授） 大石（おおいし） 芳野（よしの） 氏（フォトジャーナリスト） 鳥飼（とりかい） 玖美子（くみこ） 氏（立教大学名誉教授） 二木（ふたき） 謙一（けんいち） 氏（國學院大學名誉教授） 吉岡（よしおか） 幸雄（さちお） 氏（染織史家）
部内選考委員 6人	堂元副会長（選考委員長） 木田専務理事 児野専務理事・技師長 荒木理事 菅理事 中田理事

なお、9人の受賞者への贈呈式は、3月15日（金）の「第94回放送記念日記念式典」（午前10時～NHKホール）で実施する。
また、受賞者には佐藤忠良氏作のブロンズ像「ふたば」と副賞を贈呈する。
（※受賞者の部外発表は、3月7日(木)の会長定例記者会見で行う予定）

3月7日(木)15時 会長会見まで非公表

（報告事項　　）

第1324回経営委員会資料
２０１９年２月２６日

第７０回日本放送協会放送文化賞・受賞者資料

稲畑　汀子（いなはた　ていこ）　氏　（８８）　《俳人、日本伝統俳句協会 会長》

NHKの俳句番組「俳句王国」の主宰、「NHK俳壇」「NHK俳句」の選者など、約30年にわたり俳句関連番組に出演し、その中心的存在として番組を支えていただきました。1999年度に第1回が開催されたNHK全国俳句大会では、これまでの20回すべてで選者を務めています。放送を通じて俳句文化のすそ野を広げ俳句ブームの礎を築くなど、放送文化の発展に貢献しています。

伊福部　達（いふくべ　とおる）　氏　（７２）　《東京大学名誉教授》

高齢者や障害者の「見る、聞く、話す」を支援する福祉工学の第一人者として、放送技術への応用研究や開発を先導しています。その豊富な知見をもとに制作された緊急地震速報チャイムは、聞き取りやすくかつ緊急性が伝わる音として、国民の間に広く認知されるなど、「人にやさしい放送」の発展を技術面で支え、放送文化の発展に貢献しています。

大日向　雅美（おおひなた　まさみ）　氏　（６８）　《恵泉女学園大学 学長》

子育て支援の重要性を訴え、その理念を広めてきた草分けの一人。1987年の「おかあさんの勉強室」以降、現在の「すくすく子育て」まで、30年以上にわたりNHKの育児番組や「クローズアップ現代」など報道番組へ多数出演。根底にある社会問題に鋭く切り込みながら、育児に悩む母親たちに寄り添う姿は多くの視聴者の共感を集め、公共放送の声価を高めています。

尾高　忠明（おたか　ただあき）　氏　（７１）　《NHK交響楽団 正指揮者》

日本を代表する国際的指揮者として内外の一流オーケストラを指揮するとともに、40年以上にわたり本格的クラシック音楽番組から音楽バラエティーまで幅広い番組に出演し、音楽の奥深さや楽しさを親しみやすく柔らかな語り口で伝えています。またNHK交響楽団の正指揮者として多くの名演奏を残し、放送を通じて視聴者に深い感銘を与え、放送文化の発展に貢献しています。

こんどう　まさおみ
近藤　正臣　氏　（７７）　《俳優》

大河ドラマへの出演は 1970 年の「樅の木は残った」から、「国盗り物語」や「龍馬伝」「真田丸」まで 10 本を数えるほか、連続テレビ小説「ごちそうさん」「あさが来た」など、数多くのテレビドラマに出演。野心にあふれる戦国武将から妻に頭が上がらない気弱な夫まで、幅広い役柄を確かな演技力で演じて視聴者を魅了。日本のテレビドラマを半世紀にわたり支えています。

たかはし　げんいちろう
高橋　源一郎　氏　（６８）　《作家、明治学院大学 教授》

1980 年代半ば「YOU」や「スタジオ L」に出演して以来、「日曜美術館」「クローズアップ現代」など文化・教養系番組に数多く出演。また、2012 年からはラジオ「すっぴん！」金曜日のパーソナリティを務めています。文学や美術からメディア論、戦争と平和、時代といった広範なテーマについて、柔らかくしなやかに語り得る貴重な存在として、放送文化の発展に貢献しています。

のむら　まん
野村　萬　氏　（８９）　《狂言師（和泉流）、日本芸能実演家団体協議会 会長》

戦後の混乱期から現在に至るまで、狂言方の第一人者として正統な狂言の芸を現代に伝えています。半世紀以上にわたり古典芸能番組に数多く出演し、風格と気品あふれる芸風で伝統芸能の魅力を広く発信しているほか、近年は日本芸能実演家団体協議会会長として、放送と伝統芸能の世界をつなぐ役割を果たしており、放送文化の発展に寄与しています。

はらぐち　いずみ
原口　泉　氏　（７２）　《志學館大学 教授》

薩摩藩の歴史研究の第一人者として、大河ドラマ「翔ぶが如く」「琉球の風」「篤姫」「西郷どん」の 4 作品、連続テレビ小説「あさが来た」で時代考証を担当したほか、1984 年の「歴史への招待」以降、数多くの歴史番組に出演。また NHK 鹿児島局制作の地域番組への出演を通じ、約 40 年にわたり地域の文化・魅力を発信し続けており、幅広く放送文化の発展に貢献しています。

むろさき　よしてる
室﨑　益輝　氏　（７４）　《兵庫県立大学大学院 教授》

阪神・淡路大震災以降、20 年以上にわたり防災学の専門家として NHK スペシャルなど特集番組や「クローズアップ現代」等、数々の震災関連番組に出演、取材協力していただきました。また、災害報道や番組制作にあたる職員に対し防災・減災に関する講義・指導を行うなど、「命と暮らしを守る報道」に対する貢献は大きく、公共放送の意義を高めています。